

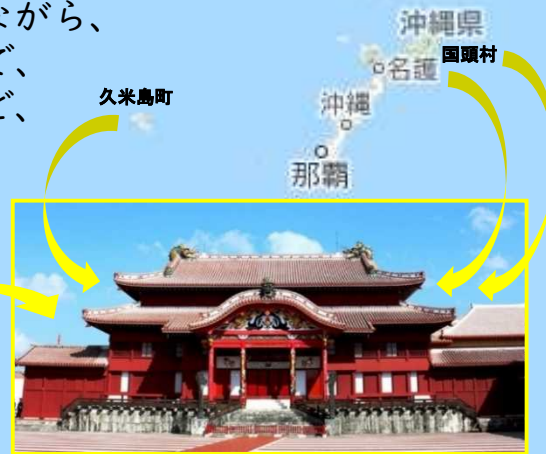
首里城復元過程の公開「見せる復興」での各関連地域との連携

令和の復元における「見せる復興」での県内各地域と首里城とのつながりについて

琉球王国時代に首里城建築で用いられていた材料の解明が進み、また、現在の県内での産出状況についても調査を行っており、木材調達以外においても、石材として与那国町から、顔料として久米島町や名護市からの材料調達を検討しているところです。

沖縄県では、首里城復興基本計画に基づき、県内各地の「伝統技術の継承と活用」と合わせて、県民をはじめ様々な方々と連携・協力をしながら、「復元過程の公開 = 見せる復興」の一環で、**地域と連携した復興イベントを実施**するなど、首里城復興に取り組んでいるところです。

「見せる復興」として、県内各地域と首里城とのつながりの見える化について、首里城での各地域の紹介を含め、検討しています。



(例) 材料を提供する地域の小中学生を対象にして、実際の首里城の復元に関わっている職人が、地域で調達した材料を用いて、往時の道具や技術で行う作業状況を説明する

(例) 木材の実物輪切り等を地域に展示してもらい、地域と首里城とのつながりを残すとともに、後継木生育に長い年月が必要なことを考える機会とする

【前回平成の復元】開園の約1年前(1991.6.29)に県内の小中学生約500名を招いて「首里城建設現場見学会」を実施

地域と連携した復興イベントの実施状況



破損瓦での漆喰シーサーづくり
指導者：琉球赤瓦漆喰施工共同組合

エイサー演舞(首里地区児童)



旗頭演舞(地域青年会)



古典芸能(県立芸大生)

製材時の端材を用いた参加記念品



ちぎり

(木製かすがい)

箸

コースター

しおり